

令和 4年11月「月 報」

1 はじめに

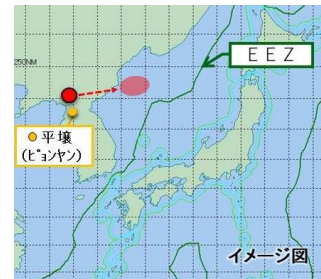
9月末から10月上旬にかけて、朝鮮人民民主主義共和国（北朝鮮）が弾道ミサイルを東方向、すなわち、わが国の方向に向けて発射しました。

統合幕僚監部がホームページで発表している内容を紹介しますと、以下の通りです。

○ 9月25日0652頃

最高高度50km程度 400km程度飛翔

変則軌道で飛翔した可能性あり



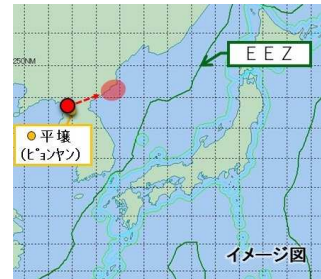
○ 9月28日1810頃

最高高度約50km程度

1827頃

最高高度約50km程度

約300～350km程度飛翔



○ 9月29日2047頃

最高高度約50km程度 約300km程度飛翔

2053頃

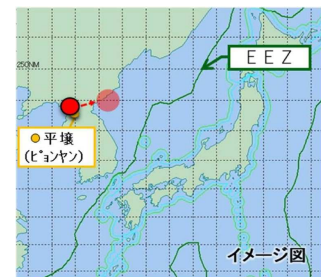
最高高度約50km程度 約300km程度飛翔



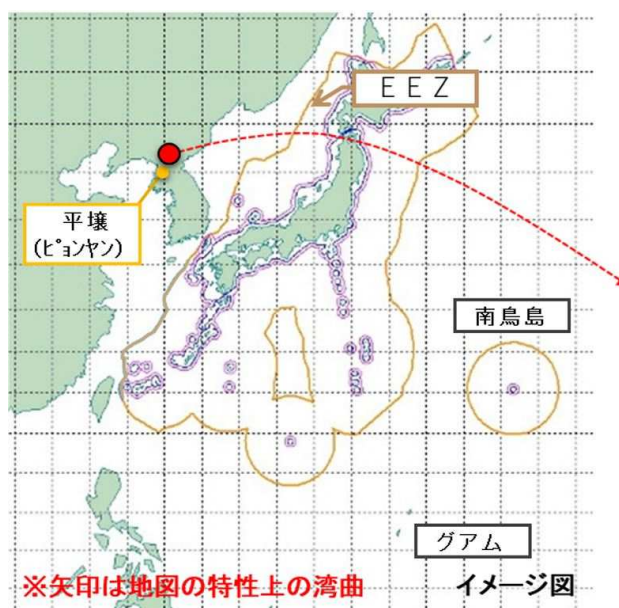
○ 10月 1日06時42分頃及び06時58分頃

最高高度約50km程度

約350～400km程度飛翔



- 10月 4日07時22分頃、
最高高度約1,000km程度、
約4,600km程度飛翔。
07時28分頃～29分頃にかけて
青森県上級を通過。



- 10月 6日06時00分頃
最高高度約100km程度で約350km飛翔
6日06時15分頃
最高高度約50km程度で約850km飛翔
※ 変則軌道で飛翔した可能性あり



- 10月 9日01時47分頃
9日01時53分頃
いずれも最高高度約100km程度で
約350km程度飛翔



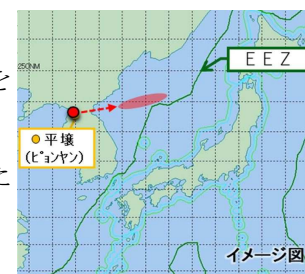
北朝鮮は、これら9月25日から10月9日にかけての一連の弾道ミサイル発射に関し、
10月10日、「朝鮮人民軍戦術核運用部隊の軍事訓練を行った」と発表しました。

そして14日01時47分頃、最高高度約50km程度、
変則軌道で約650km飛翔した可能性のある弾道ミサイルを
発射しました。

今年1月以降の北朝鮮によるミサイル発射を数えてみました
ところ、最初は1月5日で、27回を数えました。

10月10日には中国艦艇が沖縄本島と宮古島を通過。

4月から8月末までの対領空侵犯措置／緊急発進の回数は中ロ合わせて386回。
挑発行動をエスカレートさせる北朝鮮、武力による現状変更を否定しない中ロ。
それらから我が国を防衛する力の中核が、我々が支える自衛隊員です。



2 防衛省・自衛隊の活動

我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、自衛隊は、わが国自身の防衛体制の充実、日米同盟とともに多角的多層的な安全保障協力を推進しています。

※この2カ月にわたり、紹介できなかった活動の一部を訓練を中心に紹介します。



リムパック2022
米ハワイ州カウアイ島
← 12式SSM
第5地対艦ミサイル連隊
(西部方面特科隊/健軍)
米第17砲兵旅団 (HIMARS) →



ガルダ・シールド22
米グアム島、インドネシア スマトラ島
← 共同空挺降下
第1空挺団(陸上総隊/習志野)
米第11空挺師団、インドネシア第18空挺旅団



北海道訓練センター実動対抗演習
上富良野、矢臼別、然別 各演習場
訓練参加部隊が機動展開に引き続き対抗演習を実施
← 戦闘準備中の戦車



オリエントシールド22
健軍、奄美、福岡 各駐屯地
瀬戸内分屯地(奄美大島)、霧島演習場(鹿児島)
西方総監部、第4師団、西部方面特科隊、第2高射特科団等

【共同対艦戦闘訓練】

日米豪韓加合同訓練(パシフィック・ヴァンガード22) 米グアム島及び周辺海空域
陸上自衛隊の火力誘導員が、米海兵隊の火力誘導員と共同し、海自及び各国海軍の



艦砲射撃を誘導

←日米共同による
艦砲火力の誘導



↑護衛艦「たかなみ」の艦砲射撃



EU海上部隊（フランス海軍）との 海賊対処共同訓練 アラビア海北部

←奥が仏海軍艦艇

←手前が第42次派遣海賊対処行動水上部隊
護衛艦「はるさめ」（第2護衛隊）

5月に佐世保を出港した工藤司令、伴艦長、
中渡先任伍長をはじめとする210名余の
皆様お元気でご活躍の様子です。

ドイツ空軍との共同訓練

ドイツ空軍総監のゲルハルト中将が来日。
井筒空幕長が搭乗するF-2が、ゲルハルト
中将が操縦するユーロファイターを富士山上
空で出迎え、編隊飛行訓練の後、空自百里基
地に着陸しました。



オーストラリア空軍演習

（ピッチブラック22）への参加

オーストラリア北部準州ダーウィン空軍基地 及び同周辺空域

空自戦闘機を米国以外の海外に初めて派遣
第7航空団（百里）から約150名、F-2A×6機が参加しました。



空自は8月に、三沢対地爆撃場において、**実獲を伴う滑走路
被害復旧訓練**を陸自及び米空軍と協力して実施したほか、
9月にはハワイ州において大型輸送機（C-2）による**初の
戦術空輸の日米共同訓練**を実施しました。

↑ 滑走路被害復旧訓練

また、中国や北朝鮮の弾道ミサイル発射による
緊張の高まりの中、海自呉地区や陸自札幌駐屯
地で**地对空誘導弾PAC-3の展開訓練**を実施
し、高い練度の維持向上を図っています。



8月末から9月上旬にかけて、統合任務部隊司令部の指揮の下、陸自、空自が参加して、
令和4年度在外邦人等輸送訓練が、空自入間、府中、千歳、八雲分屯基地、計根別（けねべ
つ）場外離着陸場及び周辺空域で行われました。

3 家族会の活動

(1) 神奈川県自衛隊家族会がインド太平洋方面派遣隊（IPD）帰国行事に参加



浜松から駆け付けた
内山さん家族



自衛艦隊司令官に
帰国報告をする IPD 指揮官



湘南地区会の
江口さん家族

10月5日、神奈川県自衛隊家族会は、令和4年度インド太平洋方面派遣部隊（指揮官 平田利幸 海将補 以下、IPD という。）に参加していた護衛艦「いずも」、「たかなみ」の帰国行事に参加しました。本年度は5回目となる IPD は、平成29年から始まり、インド太平洋の我が国にとって死活的な海域をめぐりながら、同盟国である米国や沿岸国と共同訓練や親善訓練を重ね信頼醸成に努めるとともに、当該海域の安寧に寄与してきました。

雨天にもかかわらず、関係者や多くの家族が行事に参加し、家族は、整列した隊員に目を配り、どこに並んでいるのだろうと4か月ぶりに帰国した隊員を早く見つけたいと身を乗り出していたのが印象的でした。

(2) 高知県家族会が新隊員後期課程の35km行進を激励



9月17日に50普通科連隊（高知駐屯地）の新隊員後期教育で35km行進訓練が実施されました。高知県自衛隊家族会は、山内第50普通科連隊長はじめ、他の自衛隊協力団体（隊友会安芸支部・防衛協会香美支部・駐屯地協力会）及び芸西村村長他と共に、最終休憩地点の夜須駅前で、盛大に激励して新隊員の士気を高揚させることができました。

激励に参加した家族は、我が子の成長に感動しており、今回の慰問・激励活動は家族会入会の魅力の一つであることを再確認できました。

※当初の計画では夜間行進訓練の予定でしたが、台風14号の接近により昼間行進訓練に変更して実施されました。

(3) 記念行事への参加

9月25日、3年ぶりの一般開放有観客となる中部方面隊創隊62周年記念行事が開催され、兵庫県自衛隊家族会伊丹地区会が参加しました。堀井中部方面総監をはじめ各師団長、海上自衛隊阪神基地隊司令吉田1等海佐、佐藤正久自衛隊家族会顧問や国會議員の方々と直接意見交換の場を持つ事が出来ました。（写真は次ページ）



(4) 部隊研修・訓練研修



9月12日、神奈川県自衛隊家族会小田原地区会は駒門駐屯地にて部隊研修を行いました。

まずはブリーフィングにて駐屯地の事を学び、隊員の皆様が編集された島嶼防衛の映像を観覧。その後、3人づつに分かれて96式装輪装甲車(WAPC)に試乗し、貴重な展示物がたくさんある史料室を見学して、体験喫食。メニューは「あじの唐揚げ 南蛮たれ」。見た目よりかなりボリュームで、美味しくいただきました。午後からの装備品(戦車)見学は、目で見て、手で触って、じっくりと時間をかけて細かい部分まで見学することができました。

ブリーフィングから全ての過程において、駒門駐屯地の広報の方の解説付きで見学させていただきました。貴重な体験をさせていただき、またコロナの心配もある中、部隊研修を受け入れてくださった駒門の皆様、実現にご尽力いただいた小田原地域事務所の皆様に大変感謝しております。

ブリーフィングから全ての過程において、駒門駐屯地の広報の方の解説付きで見学させていただきました。貴重な体験をさせていただき、またコロナの心配もある中、部隊研修を受け入れてくださった駒門の皆様、実現にご尽力いただいた小田原地域事務所の皆様に大変感謝しております。

10月20日、青森市自衛隊家族会は、第9師団の実施する射撃競技会を研修しました。新型コロナウイルスの影響も若干緩和され、青森地本からお誘いがあり、約3年ぶりに家族会活動として部隊研修をする運びとなりました。当日は晴天に恵まれ、25名の参加者が射場に到着すると田尻師団長が直接お出迎えくださり、統裁地点の特別席にて研修をさせていただきました。

参加者は自衛官と同じ鉄帽をかぶり、準備していただいた双眼鏡を持って重迫撃砲の弾着状況を目の当たりにすると、思わず「わーすごい、迫力ありますね」と生の感想を漏らし、次いで師団渉外幹部から重迫撃砲の運用法や特性、3者連携(重迫撃砲分隊、前進観測者、射撃指揮所の連携)の説明を受け、設置されたスクリーンに実際の射撃動作や弾着観測の様子が映し出されたものと、その結果により弾着した状況を目視すると改めて自衛隊の実際の射撃のやり方に感動しておりました。また、普段は感じない隊員の奥深さや頼りがいについても口々に我が息子たちを称え合っていました。



その後、当日の射撃に使用している 120 ミリ重迫撃砲や、小銃小隊の競技会に使用した小銃・機関銃等の装備品を研修しました。

岩手駐屯地に移動し駐屯地の概要説明を受けた後、隊員食堂で喫食体験をしました。この日は特別メニューで、二戸市のキングオブチキンで有名な鶏肉を食べることができ、特に奥様達には好評でした。



昼食後は岩手駐屯地所在部隊の保有する 74 式戦車、155 ミリ榴弾砲 (FH-70)、短 SAM、近 SAM 等の説明を受け、美しく映えわたる岩手山や装備品に寄り添っての記念写真を撮り、無事に研修会を終了しました。

(5) 協定書の締結

高知県自衛隊家族会は、10月25日(火)、自衛隊高知地方協力本部との間で「入隊・入校予定者に係る個人情報の提供」に関する協定書を締結しました。



自衛隊
高知地方協力本部長 森岡 1 等陸佐
原 高知県
自衛隊家族会
会長

本協定書は、「高知地本が事前に入隊・入校予定者保護者に情報提供に係る承諾を得ること」及び「県家族会が入会案内のみに使用すること」を条件として締結されました。

既に同協定書を締結された各県家族会と同様、高知県家族会においても会員減少に歯止めがかからない状況が続いており、その打開策として「入隊・入校予定者の情報提供」を高知地本へ打診したところ、地本長はじめ関係者等の多くの方に県家族会の現状を認識していただき、協議を経て今回の協定書締結に至りました。

(6) 自衛隊家族会への入会説明会を実施

神奈川県自衛隊家族会は、10月3日、海上自衛隊横須賀教育隊で行われた、今年度の秋季入隊者の入隊式後の「隊員家族に対する厚生案内」の際に、自衛隊家族会への入会説明をする機会をいただき、約150家族に対して自衛隊家族会への入会案内を実施しました。

説明終了後、神奈川県内の家族に限らず、多くの家族から直接入会届を頂くとともに、宮城県等の家族からは「地元で入会届を出したが、頑張ってください。」等の逆の激励も頂き、説明機会を設けた甲斐があったようです。

また、多くのご家族から具体的な家族会の活動等や自衛隊の知見が少ない状況の中で、自身の不安を払しょくするかのように熱心に聞いていたのが印象的でした。



(7) 第50次派遣海賊対処行動航空部隊を激励

10月29日(土)古門沖縄県家族会会長が那覇基地を訪れ、第50次派遣海賊対処行動航空部隊(派遣隊長川平2等海佐)を激励しました。出発は11月8日です。



左：川平2佐 →

右：古門会長

←後列左から

前原3海曹

第5航空群司令 降旗海将補、古門会長、園内2海尉

前列左から 山田3海曹、島村2海尉



4 事務局からの連絡

(1) 新任会長・事務局長等研修会の予定(リマインド)

「新任会長・事務局長等研修会」を11月10日(木)にグランドヒル市ヶ谷において実施いたします。該当する方は宜しくをお願いします。

(2) DW取材好調

各方面のご協力を得て、来年発行予定のDW23の取材を行っております。

一部のご家族の方々には、「家族の声」を寄せていただきました。

現役自衛官の方々の取材では、陸上自衛隊練馬駐屯地、海上自衛隊呉基地、航空自衛隊百里基地のご協力をいただき、凜とした中にも笑顔を忘れず、澁瀬として勤務する隊員の方々の姿を捉えることができました。

ご協力いただいた方々に、感謝申し上げます。

(3) 南関東防衛局が開催する防衛問題セミナーのお知らせ(リマインド)

南関東防衛局が防衛問題セミナーを開催します。

セミナーは11月5日(土)1400からYouTubeで配信され、アーカイブで11月27日(日)まで視聴できます。「安全保障分野で活躍する女性たち」と題したセミナーの講師を務められるのは、防衛研究所戦史研究センター主任研究官の吉田ゆかり1等空佐と、米第7艦隊司令部 海上自衛隊自衛艦隊連絡官のMaria Katrina E. Ablen少佐です。

申し込みは、以下のURLまたは南関東防衛局のHPから、配信最終日の前日11月26日(土)までをお願いします

<https://forms.gle/ZgLHa3GHf6fRtopj6>

(4) ボランティア保険料の支払いについて(リマインド)

令和3年10月から更新したボランティア保険が令和4年9月で満期(1年)となりました。各県家族会の保険料支払いにつきましては、事務局からの「保険料請求のご案内」がお手元に届き、確認を頂いた後に10月～12月の間に支払いをお願いします

します。

(5) 各種希望数の確認について（リマインド）

下記について要望数をそれぞれの時期までに事務局業務担当の今井へご連絡下さい。

ア 家族会パンフレット「隊員と家族をつなぐ」

令和5年、令和6年の所要数を11月1日(火)までをお願いしておりました。

期日までに連絡をいただけなかった家族会につきましては、昨年同数とさせていただきますので、ご了承ください。

イ 北方領土返還要求署名用紙

令和5年度所要数を11月30日(水)まで

ウ 入校・入隊者激励会用「おやばと」(無償配布)

入校・入隊者激励会用の「おやばと2月号」所要数を11月30日(水)まで

(6) 令和4年度「活動状況等調査」について

既に家族会本第21号(令和4年4月28日)にて令和4年11月1日(火)を提出期としてお願いしております。心当たりの家族会は、提出の程よろしくお願い致します。

以上